

(様式1)

平成27年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 095	提案機関名 畜産技術センター企画指導部普及指導課
<b>要望問題名</b> 神奈川で発生する未利用資源の活用と機能性を強化した豚肉の開発について	
<b>要望問題の内容</b> 【 背景、内容、対象地域及び規模(面積、数量等) 】 養豚の生産現場からは、県内で発生する未利用資源を飼料として活用し地域貢献を図るとともに、その未利用資源由来の有効成分等が移行することにより機能性を伴った県内産豚肉の開発ができないものか、との要望があがっている。 機能性付加による「医食農同源」にマッチした豚肉生産が可能となれば、TPPに対抗できる強力な差別化が図られ、地産地消を推進する上でも大きな原動力となる。 そこで、神奈川で発生する未利用資源の活用と機能性を付加した豚肉の開発についての試験研究に取り組んでいただきたい。	
<b>解決希望年限</b>	①1年以内      ②2～3年以内      ③4～5年以内      ④5～10年以内
<b>対応を希望する研究機関名</b>	①農業技術センター ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
<b>備考</b>	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

<b>回答機関名</b>	神奈川県畜産技術センター	<b>担当部所</b>	企画研究課
<b>対応区分</b>	①実施    ②実施中    ③継続検討    ④実施済    ⑤調査指導対応    ⑥現地対応    ⑦実施不可		
<b>試験研究課題名</b> (①、②、④の場合) 高品質豚肉生産技術のための要素解析と品質評価への応用(平成23～27年度)			
<b>対応の内容等</b> 未利用資源活用による豚肉生産技術については、パンくずを用いた飼料給与試験を実施しており、筋肉内脂肪含量が多く柔らかい肉質の生産技術の開発に取り組んできたところです。平成26年度から新たな資源として、地域で発生するコーヒー豆粕をサイレージ化した市販コーヒー豆粕飼料の肥育豚への給与試験を実施し、肉質調査では機能性成分についても確認する予定です。また、他に県内で発生する資源として、マグロ屑の飼料化技術を検討予定ですので、その中で御要望の内容について対応して参ります。			
<b>解決予定年限</b>	①1年以内      ②2～3年以内      ③4～5年以内      ④5～10年以内		
<b>備考</b>			